

成人の日によせて

20 歳 自己発見への旅立ち

成人式を迎えられたみなさん、おめでとございます。私の二十歳のころは、明けも暮れてもピッケルを握り、ひたすら山登りに青春をかけていました。それが、いつの間にか冒険家といわれるようになりましたが、私はただ、二十歳のころに見つけた自分の道を、がむしゃらに突き進んできたにすぎません。

二十歳前後というのは、いわば「自分に出会う時」なのだと思えます。自分は何をしたいのか—この「未知」の部分に照明を当て、探り出し、それにかける—それは新しい自己発見への「旅立ち」であり、未知なる自分との闘いの開始でもあるのです。私の場合でいえば、昨年の



冒険家

植村直己

北極点到達とグリーンランド縦断は、まさにそうでした。犬約十九頭と生命を共にした四千里の行程は、ひと言でいえば、さまざまな障害との闘いでした。

たのは、苦境に陥ったときに頭をもたげてくる「弱い心」。「もう、この旅はよそう」という、もう一人の自分との闘いでした。

闘いの連続で、シロクマに襲われたときは、もうダメかと思いました。それにもまして私を苦しめたのは、これしかない。こんなことで死んでなるものか。この切実な思いが、氷上の百六十五日を支えてくれました。苦しかった半面、踏破した後の満足感は、何事にもかえがたいものでした。みなさんのような若い時にこそ、自分の全力を傾けて挑戦できる何かを見いだし、それにかける。みなさんには、それができる。まぶしいばかりの若いエネルギーが満ちあふれているのですから。私も、みなさんに負けないように、今年も南極点の単独踏破を目指します。



氷上餅つき

めずらしい氷上餅つき大会

スケートセンターで

十二月十八日、所野の日光スケートセンターで、めずらしい「氷上餅つき大会」がありました。この催しは、ことし初めて行われたもので、スケートシーズンを前に、センターのPRを兼ねて、最近ではめつきり少なくなった、臼での餅つきを再現し、子供たちを喜ばせようという趣向。フィギュア・リンクの中に木の臼を三つ持ち出している餅つき。所野保育所の園児八十人が囲りをかこみ、日光婦人会の奉仕で、つきたての餅を、あんころ餅、安倍川餅、雑煮などにし、一般スケーターにもサービスするなど、報道関係者の協力を得ての楽しい催しでした。

賀状展



達筆な賀状がずらり

御幸町にある東電日光サービスステーションの展示場で、暮れの九日から十五日まで、日光書道愛好会員による「賀状展」が開かれ、ひと足早いお正月気分でした。

広報につこう

表紙シリーズの

タイトル案 募集

来年は、栃の葉国体も開かれ、多勢のお客様を迎えます。日光のいろいろな姿を見ていただくため、まず、私達が普段気付かなかつたり、忘れていた場所があるよう、今のうちに訪ねてみる必要があるようです。今年から二年にわたり、そうしたものを、表紙のシリーズに使いたいと思えます。そこで表紙シリーズのタイトルを、皆さんに名付けていただくことにしました。ふるってご応募ください。

- ▼タイトル案を、表紙シリーズ「○○○○」(字数十字以内)と官製はがきにお書きください。
- ▼締め切り 一月十五日消印
- ▼あて先 中鉢石町 日光市役所総務課文書広報係
- ▼審査 日光市広報会議 採用の案は二月号から使用し入選者に記念品を贈ります。
- ▼参考(これまでのタイトル)
- 五十年 「伝統」
- 五十一年 「わがまち」
- 五十二年 「市民群像」
- 五十三年 「日光ゆかりの文人」